

## 高大連携教育システムの研究

愛知教育大学 理科教育講座 渡邊幹男

はじめに

附属高等学校と愛知教育大学で行っている「高大連携教育」は、愛知教育大学が附属高校を中心に行っている「教員養成系大学としての高大連携教育システムの効果および多様な入学者選抜方法に関する研究」を目的としている。入学者には、教育についての関心と教職への強い志を持てる者や幅広い教養と専門知識と技能で社会に貢献したい者を望んでいる。

高大連携とは、1999年の中央教育審議会答申では『初等中等教育と高等教育との接続の改善について』以下のことがあげられている。

高校生の大学等の教育を履修する機会の拡大

大学の Admission Policy の明確化とその周知

高校における進路・学習指導の充実

入学生の高等教育への円滑導入（入学前指導）

高校と大学相互理解の促進

以上のようなことを背景に、高大連携の拡大を図った結果、10年間で劇的に拡大した。その結果、18歳人口の減少と高等教育のユニバーサル化を背景として、高校側にとっては進学率のアップ、大学側にとっては、入学者の確保が重要な課題になった。今後は質的向上をどのように図るかが課題である。

愛知教育大学における高大連携

愛知教育大学における高大連携では下記のようなことを展開している。

アカデミッククエスト〈学術探究〉講座（2000年）（それ以前：課題研究）

⇨学習意欲・進路意識の向上⇨高大連携の強化

専門講座（夏休み）総合講座（冬休み）

高校生の大学等の教育を履修する機会の拡大

高校における進路・学習指導の充実

高校と大学相互理解の促進

愛知教育大学における高大連携の歴史的背景

附属高等学校の改革（2004年3月）

附属高校の定員割れの対応

→進学指導実績の低下・「自由な校風」

⇨「高大連携選抜に関するプロジェクト」の設置

愛教大と附属高校との高大連携入試の提案

（2004年6月教授会提案）

高大連携入試の実施に関わる提案

（2005年11月教授会提案）

→大学の Admission Policy の明確化とその周知

⇨文科省入試室との打ち合わせ（2005.11）

→実施？（2005.11）

→A0 入試方式・入学前指導の充実（2006.7）

→具体的な選抜方法・入学前指導と提案（2006.12）

教育委員会・校長会への説明

→選抜方法（一般校の参加）・入学前指導の決定（2007.1）

高大連携入試の実施に関わる提案

（2007年1月教授会提案）

2008年4月入学の学生から

他大学における高大連携入試

東工大 科学技術創造立国の人材養成

定員10名程度 A0入試形式 2005年実施

大学院（博士）までの進学

お茶の水女子大 教養教育の基礎基本力の養成

定員10名程度 推薦入試形式 2007年実施（本学と同年）

教養基礎科目（国・数・英）大学の教養科目・入門科目受講

→入学後単位認定

附属高校における入学前指導における実践活動-2012年度-

入学前指導における職場体験は主に、教員と児童との関わり方を中心に観察すると共に、教員としての仕事の内容を理解することを目的とする。大学においては、基礎実習や教育実習等が行われる。その前段階として、学校という教育現場（職場）における教員の仕事を、教員のサポート等を通して体験し、教職への高いモチベーションをより高めるものである。2012年度における実施内容は下記のものを試みる予定であ

る。

特別支援学校における手話等の実践演習（愛知県立豊橋聾学校）

聴覚障害者とのコミュニケーション

大学における聴覚障害者へのノートテイクサポート

附属特別支援学校における職場体験（愛知教育大学附属養護学校）

職業としての教員とはどのようなものか

今後に向けて

入学前指導における職場体験や大学における教育実習等を通して、大学の目標である、「実践的指導力」を持った「個性豊かな教員」を目指す。

そのためにも、上記で学んだことを踏まえて、附属高校1年生を対象に実践授業（指導案の作成・代表者による授業・授業内容および方法に関する討論）を行う計画である。実際に行う計画である、入学前指導における附属高校における研究授業体験では、「教員の立場から見た附属高等学校とは」ということを考えさせることを目標とする予定である。